

### 機関誌編集委員会の開催

平成31年3月22日（金）、協会会議室において委員長代理の吉岡大蔵副委員長（国土交通省大臣官房技術調査課技術企画官）はじめ委員14名の出席のもと、月刊「建設」の編集計画などを審議いただくため、機関誌編集委員会を開催しました。

委員会では下記の事項が審議され、了承されました。

○月刊「建設」6月号の編集計画（案）

特集 災害に強い安全な国土づくり～防災・減災～

○月刊「建設」7月号の編集計画（案）

特集 社会資本の戦略的な維持管理～維持管理の高度化・効率化～

○月刊「建設」8月号の編集計画（案）

特集 平成30年度表彰

また、その他の議案として、特集趣旨の掲載や特集以外の当面の主な掲載内容について意見をいただきました。

#### 一 主な意見

- ・6月号特集に、直轄事業の豪雨災害等を踏まえた具体的な事例とか、防災体制の強化などソフト的な事例はないのか。  
→新規予算制度の創設の中から新規事業など具体的な事例を紹介する予定です。また、ハード対策・ソフト対策の両面を加えるように検討します。
- ・7月号特集に、都道府県の取組みが少ないように思われますが。  
→年間の特集スケジュールに、維持管理の特集が2回掲載されますので、都道府県の事例がある場合は2回目に多く掲載されるようバランスをとっていきたい。

### 第257回研修委員会の開催

平成31年3月28日（木）、協会会議室において岡村次郎委員長（国土交通省大臣官房技術調査課長）はじめ委員7名の出席のもと、平成31年度の実地研修会の実施計画などを審議していただくため、研修委員会を開催しました。

委員会では下記の事項が審議され、了承されました。

○平成31年度実地研修会について

\* 明石海峡大橋

\* 平成28年熊本地震の復旧・復興と立野ダム建設事業

\* 東日本大震災の復興の現状

\* 立山カルデラ

○平成30年度研修事業実施報告及び今後の参加促進に向けて

○平成31年度講習会テーマの内容について

#### 一 主な意見

- ・長期間にわたる講習会参加者数の推移を見ると、平成7年をピークに参加者が減少しているが、主な要因は何か。  
→職員数の減少もあるが、公費の支出に対して厳しい目が向けられていた時期に大きく減少している。それ以降、参加者数が少ないままの機関があるが、年間の研修計画に組み入れることで参加者数を増やしている自治体もある。
- ・各機関の研修計画等に反映できるよう、適切なタイミングで情報提供することが重要である。
- ・全建講習会は、技術系公務員の技術力向上にとって重要な場であり、当時とは状況も変わってきているので、地方機関幹部とも話し合ってみる。

### 平成31年度公共工物品質確保技術者資格の試験及び講習会の日程が決まりました

平成31年4月8日（月）、協会会議室において木下誠也委員長（日本大学危機管理学部危機管理学科教授）はじめ委員9名と、オブザーバーとして国土交通省から大臣官房技術調査課建設技術調整室の平井親一課長補佐はじめ2名の皆様の出席のもと、公共工物品質確保技術者資格認定委員会を開催しました。

委員会では下記の事項が審議され、了承されました。

○平成31年度公共工物品質確保技術者試験応募要項（案）について

○平成31年度公共工物品質確保技術者資格登録更新の手引き（案）について

○今後のスケジュールについて

このほか、品確技術者の登録状況、都道府県における建設技術センター等の支援状況について報告しました。

〈決定した平成31年度の日程〉

○公共工物品質確保技術者試験（Ⅰ、Ⅱ共通）

申込書受付期間

平成31年5月13日（月）～6月14日（金）

※当日消印有効

応募要項の配布

全建ホームページからダウンロードできます。

(<http://www.zenken.com/hinkaku/hinkaku.html>)



面接試験開催地と日程

札幌市 平成31年10月5日(土)	仙台市 平成31年10月19日(土)	東京都 平成31年11月16日(土)
新潟市 平成31年10月26日(土)	名古屋市 平成31年10月12日(土)	大阪市 平成31年11月9日(土)
広島市 平成31年10月19日(土)	高松市 平成31年11月2日(土)	福岡市 平成31年11月9日(土)

講習会実施都市と日程

札幌市 平成31年10月4日(金)	仙台市 平成31年10月18日(金)	東京都 平成31年9月10日(火)
新潟市 平成31年10月25日(金)	名古屋市 平成31年10月11日(金)	大阪市 平成31年11月8日(金)
広島市 平成31年10月18日(金)	高松市 平成31年11月1日(金)	福岡市 平成31年11月8日(金)
浦添市 平成31年10月25日(金)		

平成30年度全建賞 予備審査委員会で  
106候補事業を選定しました

平成31年4月12日(金)、協会会議室において岡村次郎委員長(国土交通省大臣官房技術調査課長)はじめ委員12名と幹事7名の皆様の出席のもと、平成30年度全建賞の予備審査結果を確認する全建賞予備審査委員会(第2回)を開催しました。

平成30年度全建賞には全国から314事業の応募がありました。予備審査では、このなかから補欠の候補も含めて106候補事業が選定され、本審査委員会に報告することが了承されました。

今後は、5月8日(水)に開催される本審査委員会でさらに79事業程度に絞り込まれ、5月27日(月)の理事会で決定されることとなります。

○公共工物品質確保技術者資格登録更新講習  
(Ⅰ、Ⅱ共通)

申込書受付期間

平成31年6月3日(月)～7月31日(水)

※当日消印有効

主な対象者

- ①平成28年度の合格者で登録申請手続きをすませた者
- ②平成28年度に登録更新手続きを済ませた者及び平成29年度に再登録した者  
(①②共に、平成32年3月31日に登録有効期間が満了する者)
- ③平成31年3月31日で登録有効期間が満了した者

※上記の対象者には登録更新申請用紙とともに通知を送付します(5月上旬から送付予定)。

Dr.クマの“健康のヒント”

病気とつきあうということ



ひとはみんな健康であることが一番である。しかし超高齢化社会の中に生きる私たちは歳を重ねるとともにさまざまな病気になり、症状のコントロールが必要になってくるのは避けられない。病気は治れば一番良い、しかし完治はせずつきあっていかなければならない病気もとても多い。日本では昔から痛みを耐えるのは美德で、簡単に痛み止めにたよるのは良くないという考え方があった。そんなことはない、痛みを我慢する必要はない。適切な治療法を選んでコントロールすればいい。がんは不治の病ではなくなったし、根治療法ができなくともクスリを使った化学療法や放射線治療により、長生きできるようになってきた。また、がんによる痛みに対しても

治療の選択肢は多く、コントロールすることができる。本当に必要なときにモルヒネなどの麻薬を使うこともためらう必要はないと私は考えている。治らない病気ならばうまくつきあえばいい。みんながみんなできるわけではないけれども、樹木希林さんのような病気とのつきあい方もあると感じる。HIV感染症によるエイズも完治はしないけれど、寿命は他の人達と変わらない時代になってきた。今後、ますます治療法が発達し、病気を抱えたまま長生きできる時代になる。一病息災である。私たちは病気とつきあうことを学ばなければならない。

(北里大学医学部 教授 熊谷 雄治)